

会報

日本食品化学学会 2021 年度 総会 議事録

日 時： 2021 年 6 月 10 日（木）13：30～14：15
場 所： Zoom ウェビナー

議案 1. 2020 年度 事業報告および決算報告の承認

以下の事業報告書案および決算報告書案が提出され、原案とおり承認されました。

2020 年度事業報告書（案）

(1) 第 26 回総会・学術大会の記録

学 会 長： 金谷 重彦（奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授）

日 時： 2020 年 8 月 31 日（月）

開 催 方 法： 誌上開催

奨励賞受賞者：「食品中の残留農薬等の分析法開発に関する研究」

菊地 博之（国立医薬品食品衛生研究所食品部 主任研究官）

一 般 発 表：（口頭）10 題、（ポスター）44 題

参 加 者 数： 87 名（内訳：会員 75 名、非会員 2 名、実行委員 10 名）

関 連 行 事： ① 評議員会

② 編集委員会

③ 若手優秀発表賞

参 加 費： 学術大会 会員・要旨集（冊子）4,000 円、会員・要旨集（PDF）2,500 円、非会員 6,000 円

(2) ifia JAPAN 2020 食の安全・科学フォーラム 第 19 回セミナー & 国際シンポジウムの開催中止

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止。

(3) 第 36 回食品化学シンポジウムの開催

担 当 理 事： 日下部 哲也（独立行政法人医薬品医療機器総合機構国際業務調整役）

テ ー マ： 食品行政の動向と機能性表示食品を取り巻く環境

日 時： 2020 年 12 月 2 日（水）13:30-17:00

開 催 形 式： Zoom ウェビナーで実施

講演 (1) 食品安全委員会における食品リスク評価の動向

内閣府食品安全委員会委員 川西 徹

講演 (2) 食品添加物の最近の動向

国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部 第一室長 多田 敦子

講演 (3) 機能性表示食品制度発足から 5 年が経過して

消費者庁食品表示企画課 保健表示室 課長補佐 久保 陽子

講演 (4) アカデミアにおける食品の臨床研究支援の実施

大阪市立大学医学部附属病院 臨床研究・イノベーション推進センター 藤井 比佐子

講演 (5) 健康な食生活に向けた機能性表示食品の活用

株式会社 明治 乳酸菌研究所 栄養機能研究部 栄養機能 G 夏目 みどり

参 加 者 数： 107 名（会員 71 名、非会員 29 名、講師 5 名、事務局 2 名）

参 加 費： 無料

(4) 日本食品化学学会誌 第 27 巻の発行

第 27 巻 1 号の発行 発行日：2020 年 4 月 30 日 発行部数：950 部

論文 2 編 ノート 3 編

総頁数：39 頁

第 27 卷 2 号の発行 発行日：2020 年 8 月 31 日 発行部数：950 部

論文 6 編 ノート 4 編 資料 1 編 総頁数：81 頁

第 27 卷 3 号の発行 発行日：2020 年 12 月 25 日 発行部数：950 部

論文 3 編 ノート 5 編 資料 2 編 総頁数：73 頁

(5) 理事会及び各種委員会の開催

理事会：2 回（書面理事会 1 回）、評議員会（書面）：1 回、編集委員会（書面）：1 回

(6) 会員数

2020 年 12 月 31 日現在：個人会員 558 名、法人会員 63 法人、名誉会員 14 名

2020 年度決算報告書 (案)

(2020 年 1 月 1 日～2020 年 12 月 31 日)

収 入			支 出		
	予算金額	決算金額		予算金額	決算金額
会費 (個人)	1,917,000 円	1,695,000 円	学術雑誌発行費	3,500,000 円	4,143,405 円
会費 (法人)	2,400,000 円	2,400,000 円	学術大会費	400,000 円	197,990 円
会費 (賛助)	0 円	0 円	シンポジウム費	200,000 円	90,876 円
投稿料	840,000 円	740,000 円	表彰費	280,000 円	281,820 円
広告料	1,010,000 円	1,109,670 円	会議費	250,000 円	181,060 円
雑収入	270,000 円	213,759 円	ホームページ運営費	210,000 円	215,496 円
			旅費・交通費	400,000 円	221,020 円
			印刷費	170,000 円	164,183 円
			郵送費	550,000 円	376,394 円
			振替手数料	90,000 円	111,495 円
			事務費	400,000 円	365,172 円
			予備費	200,000 円	0 円
(収 入)	(6,437,000 円)	(6,158,429 円)	(支 出)	(6,650,000 円)	(6,348,911 円)
前期繰越金	4,620,355 円	4,620,355 円	次期繰越金	4,407,355 円	4,429,873 円
合 計	11,057,355 円	10,778,784 円	合 計	11,057,355 円	10,778,784 円

2021 年 2 月 16 日

事務局長 井之上 浩



会計監査報告

上記の決算書を承認するとともに、会則に従って適正に執行されたと認めます。

2021 年 2 月 16 日

監 事

伊藤 美千穂



尾崎 麻子



議題 2. 2021 年度 事業計画および収支予算の承認

以下の事業計画案および収支予算案が提出され、原案とおり承認されました。

2021 年度事業計画書（案）

(1) 第 27 回総会・学術大会の開催

学 会 長：小川 久美子（国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター病理部長）

日 時：2021 年 6 月 10 日（木）～ 6 月 11 日（金）

場 所：川崎市産業振興会館（神奈川県川崎市幸区堀川町 66 番地 20）

学会長講演：「リスク評価の潮流と展望」 国立医薬品食品衛生研究所 病理部長 小川 久美子

特別講演①：「天然物由来、錠剤、カプセル形状食品の品質保証」 国立医薬品食品衛生研究所 所長 合田 幸広

特別講演②：「食のデータサイエンス」 奈良先端科学技術大学院大学 教授 金谷 重彦

特別講演③：「食品安全行政の現状と課題（仮題）」 厚生労働省 食品基準審査課（交渉中）

奨励賞受賞者講演：3 月理事会で確定

一 般 発 表：口頭およびポスター（演題募集中）

関 連 行 事：①若手優秀発表賞、②企業展示

参 加 費：学術大会 会員 4,000 円、非会員 6,000 円、学生 1,000 円

(2) 第 37 回食品化学シンポジウムの開催

担 当 理 事：矢野理事

テ ー マ：キーワード案／持続可能な開発・発展、食品安全・表示行政など

日 時：2021 年 11 月～12 月

場 所：WEB 開催を予定

定 員：150 名程度

会 費：会員 3,000 円、非会員 5,000 円（予定）

(3) ifa JAPAN 2021 食の安全・科学フォーラム 第 20 回セミナー＆国際シンポジウム

テ ー マ：食品の輸出入拡大と穀物の衛生管理

Expansion of food imports and exports and grain sanitation management

主 催：日本食品化学学会、日本食品微生物学会、日本食品衛生学会

共催(予定)：日本食品衛生協会、食品産業センター、食品化学新聞社

協賛(予定)：JETRO、日本食品科学工学会、日本調理科学会、ILSI JAPAN、日本食品添加物協会

日 時：令和 3 年 5 月 14 日（金） 10 時 00 分～16 時 40 分（受付開始 9 時 30 分）

場 所：パシフィコ横浜（ホール C・D）

定 員：60 名（事前申し込み締め切り 5 月 7 日）

演題及び講師：

第一部 食品の輸出入に伴う規格基準と国際整合性（質疑応答は随時）

農林水産物・食品の輸出促進事業について（米と米粉を例にして）

農林水産省政策統括官付 農産企画課 米穀貿易企画室 担当者

農林水産物の残留農薬対策と国際整合性

厚生労働省医薬・生活衛生局 食品基準審査課 残留農薬等基準審査室 井上 隆弘

食肉の輸出拡大に向けた取り組み（仮）

厚生労働省医薬・生活衛生局 食品監視安全課課長補佐 担当者

第二部 穀物の衛生管理

穀物を中心とした食物アレルギー表示制度の現状

国立医薬品食品衛生研究所 生化学部第 3 室長 安達 玲子

穀物中の残留農薬分析について

一般社団法人残留農薬研究所 参事 坂 真智子

(4) 日本食品化学学会誌 第28巻の発刊

第28巻1号	2021年	4月発刊予定
第28巻2号	2021年	8月発刊予定
第28巻3号	2021年	12月発刊予定

(5) 理事会および各種委員会の開催

理事会： 1回、 評議員会： 1回、 編集委員会： 1回

2021年度収支予算書（案）

（2021年1月1日～2021年12月31日）

収 入			支 出		
項目	単価	予算金額	項目	数	予算金額
個人会員（558名）	¥3,000	¥1,674,000	学術雑誌発行費	3	¥4,150,000
個人会員（滞納分）	¥3,000	¥171,000	学術大会費	1	¥400,000
法人会員（63社78口）	¥30,000	¥2,340,000	シンポジウム費	1	¥200,000
法人会員（滞納分）	¥30,000	¥0	表彰費		¥480,000
賛助会員（0社）	¥30,000	¥0	会議費		¥200,000
投稿料		¥740,000	ホームページ費		¥220,000
広告料		¥1,000,000	旅費・交通費		¥200,000
雑収入		¥300,000	印刷費		¥100,000
			郵送費		¥380,000
			振替手数料		¥110,000
			事務費		¥200,000
（収入）		¥6,225,000	（支出）		¥6,640,000
前期繰越		¥4,429,873	次期繰越金		¥4,014,873
合計		¥10,654,873	合計		¥10,654,873

議題3. 名誉会員の承認

理事会より一色賢司氏、山崎裕康氏が推薦され、承認されました。

議題4. 次々期（2023年度）学会長の選任

理事会より東田千尋氏（富山大学和漢医薬学総合研究所教授）が推薦され、承認されました。

議題 5. 次期理事・監事候補について

理事会より以下の候補者が推薦され、承認されました。

(任期：2022 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日)

	役 職	氏 名	役割分担	所属・役職
1	理事長	合田 幸広		国立医薬品食品衛生研究所所長
2	副理事長	良永 裕子	2022 年度 シンポジウム	麻布大学生命・環境科学部教授
3	副理事長	鰐渕 英機		大阪市立大学大学院医学研究科教授
4	理事	穂山 浩	編集委員長	星薬科大学薬学部教授
5	理事	伊藤 美千穂		京都大学大学院薬学研究科准教授
6	理事	井之上 浩一	事務局長	立命館大学薬学部教授
7	理事	小川 久美子	2021 年度 学会長	国立医薬品食品衛生研究所病理部長
8	理事	日下部 哲也		独立行政法人医薬品医療機器総合機構 国際業務調整役
9	理事	佐藤 恭子	食の安全・科 学フォーラム	国立医薬品食品衛生研究所食品添加物部長
10	理事	中江 大		東京農業大学応用生物科学部教授
11	理事	東田 千尋	2023 年度 学会長	富山大学和漢医薬学総合研究所教授
12	理事	船見 孝博		三栄源エフ・エフ・アイ株式会社 執行役員第一事業部長
13	理事	松浦 寿喜		武庫川女子大学生生活環境学部教授
14	理事	松藤 寛	2022 年度 学会長	日本大学生物資源科学部教授
15	理事	矢野 竹男	2021 年度 シンポジウム	三重大学大学院地域イノベーション学研究科教授
1	監事	尾崎 麻子		大阪健康安全基盤研究所衛生化学部主幹研究員
2	監事	鳥羽 真由子		サントリー MONOZUKURI エキスパート株式会社 品質保証本部安全性科学センター課長

● 奨励賞および論文賞について

奨励賞、論文賞および広告主論文賞が下記の方々に授与されました。

第 23 回 奨励賞（五十音順）

- 阿部 裕（国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部 主任研究官）
「食品用器具・容器包装の分析法に関する基礎的および発展的研究」
- 伊藤 里恵（星薬科大学 薬品分析化学研究室 講師）
「食料試料中の残留マイコトキシンの分析法の構築および汚染実態調査」
- 志田（齊藤）静夏（国立医薬品食品衛生研究所 食品部 主任研究官）
「茶中の残留農薬一斉分析法の確立に関する研究」

第 16 回 論文賞

- HPLC determination of quercetin using relative molar sensitivity to methylparaben as a single reference
Yuzo Nishizaki, Kyoko Ishizuki, Naoko Masumoto, Atsuko Tada, Naoki Sugimoto, Kyoko Sato
Vol. 27 (2), 42-52(2020)
- Hydrolysate of highly digestible phosphorylated buckwheat major allergen Fag e 2 attenuates allergic reactions in Fag e 2-sensitized mice
Ahmad M. Al Athamneh, Yuta Suzuki, Soichiro Nakamura, Shigeru Katayama
Vol. 27 (2), 67-75(2020)

第 5 回 島津製作所論文賞

- 相対モル感度を用いた single-reference HPLC 法が定量値に影響を及ぼす要因の検討と機能性表示食品中のルテイン定量への応用
酒井有希、増本直子、西崎雄三、大槻崇、松藤寛、杉本直樹、佐藤恭子
Vol. 27 (3), 123-134(2020)

以上

2021 年度日本食品化学学会編集委員会

日 時： 2020 年 6 月 9 日（水） 12：00-13：00

場 所： Web による審議

内 容： 編集委員長の交代並びに編集事務局の移動及び日本食品化学学会誌の投稿、審査状況について報告があった。

日本食品化学学会誌投稿規定

（2020 年 5 月 改正）

日本食品化学学会誌（Japanese Journal of Food Chemistry and Safety, 略名：日食化誌）—以下“学会誌”は、学会員の食品に関連関与する化学物質の化学、安全、有用性、法律、経済、社会、歴史、行政、統計などに関する研究・調査結果を掲載することを目的とする学術論文誌であります。学会誌は、総説、論文、ノート、資料などの他、学会連絡事項等を掲載します。学会員の投稿原稿は複数の査読者の意見を基に編集委員が評価し、その採否等は編集委員会（以下、委員会）が行います。

学会誌には食品添加物、残留農薬あるいは食品汚染物の調査データであっても学術的価値のあるものは論文として掲載します。ただし、その際、調査数が少なかったり、系統だった調査が行われていない場合には返却またはノート扱いとする場合があります。また、動物実験のネガティブデータも掲載しますが、投与量や実験方法等が不適当なものはお断りする場合があります。

I 学会誌投稿等の原則

- 1 会則第9条3項に基づき、学会誌へ投稿する者の筆頭著者並びに責任著者は学会員（個人会員及び法人会員を所属名とする者）である必要があります。ただし、委員会が依頼した原稿は除きます。
責任著者（Corresponding author）は、連絡者として「投稿原稿の表紙」を記載し、論文の代表者として、研究が日本食品化学学会倫理規定に従って行われていることを確約する署名を行います。責任著者は、和文論文の場合、論文1ページ目の欄外に、責任著者（連絡先）として日本語で、Corresponding authorとして英語で、住所と氏名が記載されます。英語論文の場合には、1ページ目に Corresponding authorとして英語で、和文抄録のページに、責任著者（連絡先）として日本語で、住所と氏名が記載されます。
なお、論文が複数のグループで行われている場合を鑑み、責任著者は、2名まで認めますが、その場合どちらかが、連絡者兼代表者として、「投稿原稿の表紙」を記載し、代表者署名を行って下さい。
- 2 会誌への投稿は有料とします。ただし委員会が依頼した原稿は除きます。なお、受付の順番を待たず、直近発行の学会誌掲載を希望される場合は、別途その実費を支払っていただきます。
- 3 原稿の種類は下記に示す通りです。論文およびノートは、他の出版物に既に発表、あるいは投稿されていないものに限り、刷り上がりは本文和文で1ページ2段組みで26字×51行となります。従って1ページ当たり最大2652文字となります。
 - 1) 総説 (Review)：調査・研究論文の総括、解説等。編集委員会が依頼する場合があります。
 - 2) 論文 (Regular article)：科学的研究・調査の報告。
 - 3) ノート (Note)：研究の概略を迅速に発表、または部分的調査・研究の発表。
 - 4) 資料 (Research letter)：調査または統計等をまとめた報告（その結果を十分に論じたものは総説、論文とします）。学会員に参考となる記録やまとめ、学会員に役立つ行政、判例あるいは海外資料。委員会が提供する場合があります。内容によっては投稿料を求めません。
 - 5) 会員の意見：食品化学に関する意見、掲載論文に関する意見等。原則として投稿料を求めません。
 - 6) その他：編集委員会にご相談下さい。
- 4 投稿原稿執筆にあたっては、とくに形式を定めません。要は読み易く、文献として理解しやすい様式および記述をお願いします。ただし、論文のタイトルは、分かり易いものとし、原則として副題は付けないで下さい。また、引用文献の記述には注意して下さい。（Ⅱ-3）引用文献参照）
- 5 論文の投稿は、和文でも英文でも構いません。図表も同様です。投稿原稿には英文抄録を原稿として付して下さい。また、英文論文の場合は、英文抄録の和文も別途添付して下さい。抄録は、一般学術雑誌の例で作成されて構いません。しかし本誌では英文投稿の場合、和文で会員が目を通すのに十分容易なように、また和文投稿ながら外国から文献請求があると予想される英文抄録の場合、これら抄録はより詳しく本文の主要図表も引用し、1～2頁分を使用しても構いません。

- 6 和文論文への英文抄録には、日本語訳を付けて下さい。ただし訳文の掲載は致しません。
- 7 投稿原稿には別に示す表紙を A4 版(縦)の大きさにコピーして、所定事項を記入の上、本文用と抄録用それぞれの原稿の表紙として付して下さい。所定事項をワープロで作成したものを表紙として使用しても結構です。
- 8 掲載に際し、軽微な修正は委員会の判断にご一任下さい。もし投稿原稿の意を害した場合、その旨を寄せていただければ次号に掲載します。
- 9 注意：二重投稿などの不正が疑われた場合には日本食品化学学会誌倫理調査委員会規則に則った調査が行なわれ、その結果に基づき日本食品化学学会倫理規定に従う処分がなされることがあります。

II 投稿原稿の様式

1 原稿の記し方と構成

- 1) 緒言、研究方法、結果など見出しの項にはⅠ、Ⅱ、Ⅲ…の番号を付して下さい。以下の番号には通例 1, 2, 3 …, 1), 2), 3) …, (1), (2), (3) …として下さい。
- 2) 文献記述は次のことを守って下さい。
全文献共、同一形式(Ⅱ-3) 引用文献参照)に従って、原則として英文記載として下さい。
- 3) キーワードは和文、英文の両方で 5 句以内をお願いします。

2 表および図

- 1) 原稿本文中に表、図および写真を挿入する記述箇所、右横に挿入箇所を朱色で明示して下さい。
- 2) 図と写真のタイトルは図および写真の下とします。表のタイトルは表の上とします。なお、図表の下側に本文と併読しなくても理解できる程度に簡単な説明文が記述されていることが望ましいとします。
- 3) 図、表はそのまま製版できるようにプリントまたは墨書してください。なお、印刷に際して、改めてトレースする必要のある図・表については、その実費を請求いたします。
- 4) 図中の文字を活字で表したいときは、活字挿入希望を鉛筆で記して下さい。この場合活字挿入に必要な版下作成の実費は請求いたします。
写真：硬調にプリントした光沢仕上げのものを 1 枚ずつ A4 版の厚手の上質紙に軽く貼り付けて下さい。必要であれば原稿には希望する縮尺を付記して下さい。カラー印刷等でアート紙の使用が必要な場合は実費を請求致します。

3 引用文献

- 1) 引用文献は 1), 2) で出現順に示し、最後に一括して番号順に列記する。ibid. や idem は用いない。
- 2) 欧文誌の引用：例①のとおりとする。雑誌名は略記名の定められているもの以外略さない。略記名が不明の場合は、略記せず完全誌名を記述する。
例① Viberg, H., Fredriksson, A., Eriksson, P.: Neonatal exposure to polybrominated diphenyl ether (PBDE 153) disrupts spontaneous behaviour, impairs learning and memory, and decreases hippocampal cholinergic receptors in adult mice. *Toxicol. Appl. Pharmacol.*, **192**, 95-106 (2003).
- 3) 和文誌の引用：誌名は原則としてヘボン式ローマ字書きで記述し、欧文誌名を持つものは、必要があれば丸括弧書きで付記する。正式な欧文誌名のないものは欧文誌名を付けてはならない。また、欧文誌名は、その略記名が定められているときは略記しても良いが、略記名が不明の場合は略記せず完全誌名を記述する。例②を参考にする。なお、英文標題がないものは標題をローマ字書きし、ローマ字のあとに丸括弧に入れて翻訳標題を付記する。
例② Yoshimitsu, M., Hori, S.: Comparison of the DNA extraction methods from potato snacks and detection of genetically modified potato in snacks. *Nippon Shokuhin Kagaku Gakkaishi (Jpn. J. Food Chem.)*, **10**, 165-170 (2003).
- 4) 欧文誌、和文誌とも、巻数を表記しない雑誌では、巻数の位置に年号を太文字で記載する。
- 5) オンラインジャーナルの場合、ページ付けがある場合には、2)-4) に従う。ページ付けが無く論文番号がある場合には、巻数を記載し、その後に論文番号を記載する。

- 例③ Mabon, S. A., Misteli, T. : Differential recruitment of pre-mRNA splicing factors to alternatively spliced transcripts in vivo. *PLoS Biol.*, **3**(11), e374 (2005).
- 6) オンラインで事前公開された論文等で、まだ巻号、ページ、論文番号等が決定していない場合、あるいはこれらのものがない場合には、分かっている情報を記載し、その後に DOI を記載し、引用日について括弧書きで追記する。
- 例④ Xiao, B., Huang, X., Wang, Q., Wu, Y., : Beta-asarone alleviates myocardial ischemia-reperfusion injury by inhibiting inflammatory response and NLRP3 inflammasome mediated pyroptosis. *Biol., Pharm. Bull.*, Article ID: b19-00926, doi:10.1248/bpb.b19-00926 (cited 2020-04-28).
- 7) 欧文単行本の引用：図書の一章又は一部分を引用する場合は例⑤、⑥、全体を引用する場合は例⑦を参考にする。ISBN が判明しているものは記載する。
- 例⑤ Porter, L. J., “The Flavonoids: Advances in research since 1986”, Harborne, J. B. ed., London, Chapman & Hall, 1994, p. 23-53. (ISBN 0-412-48070-0)
- 例⑥ Joint FAO/WHO Expert Committee on Food Additives 55th Session ed., “Compendium of food additive specifications, Addendum 8”, Rome, FAO, 2000, p. 49-50. (ISBN 92-5-104508-9)
- 例⑦ Watson, C. ed., “Official and standardized methods of analysis”, 3rd Ed., London, The Royal Society of Chemistry, 1995.
- 8) 和文単行本の引用：和文単行本を引用する場合、書名は原則としてヘボン式ローマ字書きで記述し、欧文書名を記す必要があれば翻訳し、ローマ字書きのあとに丸括弧に入れて付記する。翻訳本を引用する場合には、必ず著者及び原書名を記述し、翻訳者と翻訳書名を丸括弧に入れて付記する。図書の一章又は一部分を引用する場合は例⑧～⑫、全体を引用する場合は例⑬～⑮を参考にする。ISBN が判明しているものは記載する。ただし、和文原稿において、団体著者、団体編者の場合や、書名がローマ字書きをすると意味がわかりにくくなるものは、和文で記載してもよい。例⑯～⑲を参考にする。
- 例⑧ Shigematsu, Y., “Saishin No Masusupekutorometri (Modern mass spectrometry)”, Niwa, T. ed., Kyoto, Kagaku Dojin, 1995, p. 80-92. (ISBN 4-7598-0282-7)
- 例⑨ Suzuki, I. et al. eds., “Shokuhin Tenkabutsu Koteisho Kaisetsusho, 7th Ed.”, Tokyo, Hirokawa Shoten, 1999, D-661 D-667. (ISBN 4-567-01852-4)
- 例⑩ Ono, H. et al. eds., “Shokuhin Anzensei Jiten”, 1st Ed., Tokyo, Kyoritsu Shuppan, 1998, p. 246. (ISBN 320-06124-1)
- 例⑪ Kudo, I., Inoue, K., “Purosutaguranjin Kenkyuho, Jo-kan (Technique for the study of prostaglandin, volume 1)”, Yamamoto, S., Katori, M. eds., Tokyo, Tokyo Kagaku Dojin, **1986**, p. 47-53. (ISBN 4-8079-1305-0)
- 例⑫ Derome, A. E. (Takeuchi, Y., Nosaka, A. trs.), “Modern NMR techniques for chemical research (Kagakusha No Tameno Saishin NMR Gaisetsu)”, Kyoto, Kagaku Dojin, 1991, p. 185. (ISBN 4-7598-0226-6)
- 例⑬ Ito, Y. ed. (Division of Food Chemistry, Environmental Health Bureau, Ministry of Health and Welfare, Japan supervised), “Nipponjin No Shokuhintenkabutsu 1-Nichi Sesshuryo Jittai Chosa Kenkyu (Studies on daily intake of food additives in Japanese 1976-1985)”, Tokyo, Shakai Hoken Shuppansha, 1988.
- 例⑭ Niwa, T. ed., “Saishin No Masusupekutorometri (Modern mass spectrometry)”, Kyoto, Kagaku Dojin, 1995. (ISBN 4-7598-0282-7)
- 例⑮ Murota, S. ed., “Purosutaguranjin No Seikagaku (Biochemistry of prostaglandins)”, 1st Ed., Tokyo, Tokyo Kagaku Dojin, 1982.
- 例⑯ 厚生省生活衛生局食品化学課 “第 2 版 食品中の食品添加物分析法” 2000, p. 320-322.
- 例⑰ 農業環境保全対策研究会編 “残留農薬基準ハンドブッケー作物・水質残留の分析法” 東京、化学工業日報社、1995, p. 406-410.
- 例⑱ 動物性食品の HACCP 研究班編 (厚生省生活衛生局乳肉衛生課監修) “HACCP: 衛生管理計画の作成と実践データ編” 東京、中央法規出版、1997, p. 148-152.
- 9) 官報、局長通知など
- 和文原稿では例⑲、⑳に従い引用する (英文にしない)。英文原稿では、例㉑～㉓を参考に引用する。
- 例⑲ 厚生省令第 50 号 (1995) “既存添加物名簿に関する省令” 平成 7 年 8 月 10 日。
- 例⑳ 厚生省生活衛生局長通知 “食品衛生法に基づく表示について” 平成 7 年 10 月 12 日、衛食第 186 号 (1995).
- 例㉑ Japan's Specifications and Standards for Food Additives, 7th Ed., Ministry of Health and Welfare, Japan (1999).

例② Ordinance No. 50 (Aug. 10, 1995), Ministry of Health and Welfare, Japan.

例③ Notification No. 186 (Oct. 12, 1995), Director-General of Environmental Health Bureau, Ministry of Health and Welfare, Japan.

- 10) 和文誌及び研究所報告のローマ字書きと欧文名（丸括弧内）の例を下記に示す。

分析化学：Bunseki Kagaku（なし）

栄養学雑誌：Eiyogaku Zasshi (The Japanese Journal of Nutrition)

医学と生物学：Igaku To Seibutsugaku (Medicine and Biology)

医学のあゆみ：Igaku No Ayumi (Journal of Clinical and Experimental Medicine)

化学と工業：Kagaku To Kogyo (Chemistry and Chemical Industry)

化学：Kagaku (Chemistry), (Kyoto) 化学 (Kyoto) と科学 (Tokyo) を区別するため所在地を記入

日本農芸化学会誌：Nippon Nogeikagaku Kaishi（なし）

応用薬理：Oyo Yakuri (Pharmacometrics)

生化学：Seikagaku（なし）

食品衛生研究：Shokuhin Eisei Kenkyu (Food Sanitation Research)

薬学雑誌：Yakugaku Zasshi (Journal of the Pharmaceutical Society of Japan)

国立医薬品食品衛生研究所報告：Kokuritsu Iyakuhin Shokuhin Eisei Kenkyusho Hokoku (Bulletin of National Institute of Health Sciences)

日本醤油研究所雑誌：Nippon Shoyu Kenkyusho Zasshi (Journal of the Japan Soy Sauce Research Institute)

埼玉県衛生研究所報：Saitamaken Eiseikenkyusho Ho (Annual Report of Saitama Institute of Public Health)

- 11) 私信、講演要旨集（一般講演、シンポジウムなどを含む）、インターネットホームページ、未発表のものは文献として引用しない。ただし脚注に記載することは妨げない。
- 12) 脚注は *1, *2, *3 により表し、出現したページの下部に番号順に列記する。

4 その他の留意事項

- 1) 簡単な化合物名や動植物名は、文部省学術用語審議会編 学術用語集によります。用語集に記載のないものについては、広く学術的に用いられている用語を用いて下さい。ただし、字数の多い化学名、酵素名、外国地名、外国人名、および学術的に欧文の方が理解を得やすい場合は欧文で記載して下さい。
- 2) 動植物名：片仮名書きとし、学名はイタリック体とします。ただし食品として用いる場合はこの限りではありませんが、動植物、食品名などを学名によらず英語名で図表などで一覧表としてデータと共に示す場合は必ず日本名を（ ）で併記して下さい。
- 3) その他ゴシック体（太い文字）、イタリック体（斜体）および学名などスモールキャピタルを必要とする場合は、その文字の下に朱書きでそれぞれ ~~~~~、_____ および _____ を記入して下さい。
- 4) J-Stage に掲載の都合上、外字フォントは使用できません。
- 5) 投稿原稿には、ページ番号に加え行番号を記載する。
- 6) 投稿規程全般について不明な点、特殊な要望のある場合は学会事務局にお問い合わせ下さい。

5 投稿の際の注意

- 1) ヒトを対象にした研究論文は、ヘルシンキ宣言（2008年改訂）の方針に沿い、必要な手続きを踏まえていなければならない。特に臨床サンプルを扱う場合には、原則的に所属機関の倫理委員会などの公的審査会にて認められた研究内容で、同意書等を取得した上で得たデータでなくてはならない。
- 2) 動物を対象にした研究論文は、所属機関で規程される実験動物に関する管理と使用に関するガイドラインに従った旨を明記する。

Ⅲ 投稿の方法

- 1 投稿原稿正 1 部、副 3 部の計 4 部を下記宛先まで送付して下さい（副はコピー可）。投稿原稿は査読の便宜上 A4 用紙 1 ページにつき 40 字×35 行を基本として打ち出して下さい。

宛先

〒142-8501 東京都品川区荏原 2-4-41
星薬科大学薬学部薬品分析化学研究室内
日本食品化学学会編集委員会
TEL: 03-5498-5765 E-mail: jpnjfc@gmail.com

- 2 投稿原稿在中と封筒に朱書きして下さい。
- 3 受理決定後、事務局から電子媒体（CD-R 又は USB 等）による原稿の提供を連絡致しますので、直ちに送付して下さい。この際原稿に意見を付す場合がありますので、電子媒体は修正の上で原稿（同様修正済み）と共に返送して下さい。電子媒体には使用したソフト、機種等の必要事項を記入した「ラベル」を貼って送付して下さい。

Ⅳ 掲載と費用

- 1 校正は初校、必要あれば二校を著者が行います。ただし校正時の加筆はご遠慮下さい。
- 2 掲載された論文については、下に定めた諸経費を請求します。
 - 1) 基準投稿料：1 編につき個人会員 20,000 円、法人会員および企業 40,000 円
 - 2) 規定頁（5 頁）を超過した場合は超過費を請求します。超過頁費（6,000 円／1 頁）は、19 巻 1 号掲載分より実施しています。
 - 3) カラー頁がある場合は実費を請求します。
 - 4) トレース：実費を請求します。
 - 5) 別刷：実費を請求します。
 - 6) pdf 作成：基本作成費 1,000 円プラス 1 頁あたり 1,000 円
 - 7) 上記費用は投稿原稿掲載通知後、明細書により請求します。
- 3 掲載料の納入は原則として郵便振替をご利用下さい。（別刷代を除く）
郵便振替納入先：口座 00900-3-233186
加入者名 日本食品化学学会事務局
（通信欄に送金内容を記入して下さい。）

Ⅴ 付記

- 1 本誌に掲載された論文の著作権は、日本食品化学学会に属します。

日本食品化学学会編集委員会からのお知らせ

編集委員会（事務局）の移動

2021 年度第一回理事会で、本年度中の編集委員長の交代が承認されたことにともない、これまで「国立医薬品食品衛生研究所生薬部内」にあった、日本食品化学学会編集委員会（事務局）を、2021 年 5 月 1 日より、「星薬科大学薬学部薬品分析化学研究室内」に移動することになりました。従いまして、

A：2021 年 4 月 30 日までの投稿は、従来通り、

〒210-9501 神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-26 国立医薬品食品衛生研究所生薬部内 日本食品化学学会編集委員会 宛てで投稿いただきますが、

B：2021 年 5 月 1 日からは、

〒142-8501 東京都品川区荏原 2-4-41 星薬科大学薬学部薬品分析化学研究室内 日本食品化学学会編集委員会 宛てで投稿下さい。(e-mail: jpnjfc@gmail.com)

ただし、A で投稿された論文等は、合田幸広現編集委員長の下で、最後まで審査が行われますので、問い合わせ並びに再投稿原稿等も、「国立医薬品食品衛生研究所生薬部内」宛てで、送付を御願います。

一方で、B で投稿された論文等は、穂山浩現副編集委員長（新編集委員長）の下で、審査が開始されますので、問い合わせ並びに再投稿原稿等は、「星薬科大学薬学部薬品分析化学研究室内」宛てで、送付を御願います。

なお、2021 年 28 巻 2 号までに掲載される論文等は、合田幸広現編集委員長の下での審査となり、同巻 3 号以降の論文は、穂山浩新編集委員長の下での審査として取り扱います。

投 稿 原 稿 の 表 紙

投 稿 原 稿 の 種 類	総 説	論 文	ノ ー ト	資 料
投 稿 原 稿 の 文 字	和 文	英 文		

(提出原稿に対応するものを○で囲んで下さい。)

投 稿 年 月 日	西 暦	年	月	日
論 文 等 の 表 題 (和文及び英文)				

著者名及び所属機関名 (和文及び英文)	
---------------------	--

キ ー ワ ー ド (和文及び英文)	
--------------------	--

ワープロの機種及び原稿に関する 情報	ワープロの機種等必要事項：
	原稿： 枚 図： 枚 表： 枚 写真： 葉

連 絡 者 の 住 所 (和文及び英文)	〒()
機 関 名 (和文及び英文)	
TEL・FAX	TEL FAX
連 絡 者 の 氏 名 (和文及び英文)	

本研究内容は、日本食品化学学会倫理規定に従って行われていることを確約します。

代表者署名 _____

連絡者の E-mail	
-------------	--

備考・関連事項など

日本食品化学学会理事及び監事 (2020 年 1 月 1 日～ 2021 年 12 月 31 日)

理事長	小関 良宏	東京農工大学工学部生命工学科教授
副理事長	合田 幸広	国立医薬品食品衛生研究所所長
副理事長	辻村 英雄	公益財団法人サントリー生命科学財団理事長
理事	穂山 浩	星薬科大学薬学部教授
理事	井之上 浩一	立命館大学薬学部教授
理事	井上 健夫	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社取締役常務執行役員
理事	小川 久美子	国立医薬品食品衛生研究所病理部長
理事	奥村 克純	三重大学大学院生物資源学研究科教授
理事	日下部 哲也	独立行政法人医薬品医療機器総合機構国際業務調整役
理事	佐藤 恭子	国立医薬品食品衛生研究所食品添加物部長
理事	中江 大	東京農業大学応用生物科学部教授
理事	松浦 寿喜	武庫川女子大学生生活環境学部教授
理事	矢野 竹男	三重大学大学院 地域イノベーション学研究科教授
理事	良永 裕子	麻布大学 生命・環境科学部教授
理事	鰐淵 英機	大阪市立大学大学院医学研究科教授
監事	伊藤 美千穂	京都大学大学院 薬学研究科准教授
監事	尾崎 麻子	大阪健康安全基盤研究所 衛生化学部主幹研究員

日本食品化学学会編集委員会 (2020 年 1 月 1 日～ 2021 年 12 月 31 日)

編集委員長	合田 幸広	国立医薬品食品衛生研究所所長
副編集委員長	穂山 浩	星薬科大学薬学部教授
編集委員	石井 里枝	埼玉県衛生研究所副所長
編集委員	一色 賢司	一般財団法人日本食品分析センター学術顧問
編集委員	岡 尚男	金城学院大学消費生活科学研究所客員研究員
編集委員	小川 雅廣	香川大学農学部応用生物科学科教授
編集委員	小関 良宏	東京農工大学工学部生命工学科教授
編集委員	川原 信夫	公益財団法人高知県牧野記念財団理事長兼高知県立牧野植物園長
編集委員	魏 民	大阪市立大学大学院医学研究科分子病理学准教授
編集委員	橘田 和美	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構本部人事管理役兼ダイバーシティ推進室長
編集委員	庄司 俊彦	農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門食品健康機能研究領域食品機能評価ユニット
編集委員	白杉 直子	神戸大学名誉教授
編集委員	田口 貴章	国立医薬品食品衛生研究所食品部室長
編集委員	田中 卓二	岐阜市民病院病理診断科部長・病理診断研究センター長
編集委員	辻村 英雄	公益財団法人サントリー生命科学財団理事長
編集委員	手島 玲子	岡山理科大学獣医学部教授
編集委員	中江 大	東京農業大学応用生物科学部食品安全健康学科食品安全評価学研究室教授
編集委員	西島 基弘	実践女子大学生生活科学部名誉教授
編集委員	林 新茂	東京農工大学農学部客員教授
編集委員	増田 修一	静岡県立大学食品栄養科学部食品衛生学研究室教授
編集委員	松藤 寛	日本大学生物資源科学部食品生命学科教授
編集委員	水上 元	元高知県立牧野植物園園長
編集委員	三宅 義明	愛知淑徳大学健康医療科学部健康栄養学科教授
編集委員	森川 敏生	近畿大学薬学総合研究所教授
編集委員	矢野 竹男	三重大学大学院地域イノベーション学研究科教授
編集委員	吉岡 靖雄	大阪大学微生物病研究所 BIKEN 次世代ワクチン協働研究所特任教授
編集委員	良永 裕子	麻布大学生命・環境科学部食品生命科学科教授

複写複製および転載複製をご希望の方へ

本会では複写複製および転載複製に係る著作権を学術著作権協会に委託しています。当該利用をご希望の方は、学術著作権協会 (<https://www.jaacc.org/>) が提供している複製利用許諾システムもしくは転載許諾システムを通じて申請ください。尚、(社) 日本複写権センター (同協会より権利を再委託) と包括複製許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写はその必要はありません。社外頒布用の複写は許諾が必要です。また、著者や非営利団体に該当する方が転載利用の申請をされる場合には、本会に直接お問い合わせください。

権利委託先: 一般社団法人 学術著作権協会 〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3F

FAX: 03-3475-5619 E-mail: info@jaacc.jp

著作物の引用、翻訳等に関しては、(社) 学術著作権協会に委託しておりません。直接、日本食品化学学会へお問い合わせください。

Reprographic Reproduction outside Japan

The Japanese Society of Food Chemistry authorized Japan Academic Association For Copyright Clearance (JAC) to license our reproduction rights and reuse rights of copyrighted works. If you wish to obtain permissions of these rights in the countries or regions outside Japan, please refer to the homepage of JAC (<http://www.jaacc.org/en/>) and confirm appropriate organizations. You may reuse a content for non-commercial use, however please contact us directly to obtain the permission for the reuse content in advance. Obtaining permission to quote, translate, etc., please also contact us directly.

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

Address: 9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052, Japan

Website: <http://www.jaacc.jp/>

E-mail: info@jaacc.jp FAX: +81-33475-5619

日本食品化学学会誌 第 28 巻第 2 号

2021 年 8 月 30 日発行 [定価 2000 円] (会員無料)

編集兼発行人

日本食品化学学会

事務局 〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1

立命館大学薬学部・大学院薬学研究科 臨床分析化学研究室

e-mail: shokuhinkagaku@jsfcs.org ホームページ: <http://www.jsfcs.org/>

印刷所

〒541-0059 大阪市中央区博労町 1-2-2 株式会社 アビックス

©2021 Japanese Society of Food Chemistry